



画期的な白血病治療薬を生み出し話題に

東光薬品工業は、医療用・一般用医薬品、医薬部外品、化粧品などの研究開発・製造を行う企業。主力製品は湿布薬や塗り薬で、「インペタン」や「メディータム」シリーズなど数多くの自社ブランドを展開するかわら、大手製薬メーカーのOEM製品も手がけている。

同社が注目を浴びたのは、「急性前骨髄球性白血病」の治療薬を開発・販売した2005年。画期的な新薬を生み出すには莫大な予算と数年～十数年にわたる研究期間が必要で、中小規模の製薬メーカーには極めて難しいとされる中、同社は見事に成功を収めた。

「当社の従業員数は約250人。そのうち、研究開発部門に所属しているのは三十数人です。こうした規模の企業が新薬を生み出した例は、おそらくほとんどないのではと思います」（代表取締役社長 小林洋一氏）

新薬の開発は、必ず成功するわけではない。期待通りの薬効が得られず、失敗に終わる危険性も大いにある。しかし東光薬品工業は、新薬開発に多くの研究員を従事

させ、数十億円規模の投資も実施。社内外からは、開発の見直しを求める声が出たこともあった。

「それまで当社は外用薬中心で、内服薬の研究開発を行った経験がほぼありませんでした。反対意見が出るのは、仕方のない面もありましたね」（小林氏）

開発を支えた顧客ニーズと経営視点

だが、小林氏は諦めなかった。その理由は2つ。

「一つ目は、お客さまのニーズに応えたいという気持ちでした。急性前骨髄球性白血病が発生するのは、年に数百例ほど。市場が小さく、新薬開発に成功しても大きな利益は期待できないため、大手製薬メーカーはどこも製品化しようとしませんでした。でも、患者さんやその家族、治療にあたっている医師などの方々にとっては、命に直結する、本当に切実な問題。皆様の『この病気を治したい』という声が、厳しい中でも開発を続けるモチベーションになりましたね。

もう一つの理由は、ビジネス的な視点です。誰でも作

れるような製品だけを手がける企業は、価格競争に巻き込まれ、いずれ淘汰されます。一方、ノウハウや研究開発力などの強みを追求し、それが生きる分野を見つけて勝負する企業なら生き残れるでしょう。『オリジナルの強み』を1つでも多く作ろうと思ったからこそ、厳しい中でも新薬開発を進めたのです」(小林氏)

ただし、小林氏にはある程度の勝算があった。白血病治療薬はニッチな分野で、大手が参入する危険性は小さい。また、仮に白血病の新薬開発に失敗しても、薬効成分が皮膚病などの治療薬に役立てられる見通しも立てていた。リスクは最小限でとどめられるという自信を持った上で、小林氏は挑戦に乗り出したのだ。

また、自社だけでなく周囲の研究機関などと協力しながら研究開発を進めたことも、成功の一因だった。

「薬効成分の『新規合成レチノイド』は、東京大学薬学部で初めて合成された物質です。また、この薬は『希少疾病治療薬』として厚生省(当時)から承認されたことで助成金が下り、優先審査も受けられて、比較的早く製品化にこぎ着けられました。つまり、産学官の連携があったからこそ、新薬を生み出すことができたのです」(小林氏)

独自の強みを生かして得意分野で勝負

東光薬品工業では今後も、自社の強みを生かした製品作りに取り組む方針だ。

「例えば、これまで飲み薬などの形で提供されていた薬を貼付剤に置き換えられないかと模索しています。貼付剤は、薬効成分を長時間かけて身体にしみこませられますし、飲み込む必要がないので、高齢者などにも負担が小さくて済むという利点があります。また、万が一副作用が起きても、はがせばすぐに効き目を止めることができるのです。当社には他社が持っていないノウハウが豊富にあります。それらを生かせば、勝算は十分にあると考えているのです」(小林氏)

小林氏は毎年「経営事業計画書」をまとめ、社員に開示している。

「口だけで夢を語っても説得力は出ません。そこで、自社の現状とこれから進むべき道を文章やグラフにし、わかりやすく説明しようとしています」(小林氏)

さまざまな情報をオープンにして企業が目指す方向を共有し、全社員のパワーを一つに束ねる。それが、東光薬品工業の成長の原動力となっているのである。



- ①長年にわたって蓄積されてきたノウハウを活用し、顧客ニーズに合った湿布薬などを生み出す
- ②手がけている製品の一部。自社ブランドから有名なOEM製品まで幅広い
- ③毎年まとめている経営事業計画書。自社の方針を社員と共有するためには欠かせないと小林氏
- ④幅広い顧客ニーズに対応出来るよう、各種ラインを充実させている釧路工場



(2ページの写真) 社外の研究機関などとも協力しながら、最大の武器である研究開発力を伸ばそうとしている

職員から～取材を終えて～

ニーズのあるニッチ市場に社内一丸となって事業計画を立案し事業遂行していく同社の経営は中小企業の目指すべき姿といえます。

ニッチトップ育成支援事業や知財交流会など多くの公社事業を活用してきた同社。産業の発展への貢献が高い評価を受け、東京都の技術振興功労を受賞したことはとても嬉しいことです。同社が今後もますます発展していくことを確信しています。

(知的財産総合センター 長岡宏昭)

東光薬品工業株式会社

(会社概要)

代表者：代表取締役社長 小林 洋一 氏

資本金：8000万円

従業員：250名(2017年10月現在)

所在地：足立区鹿浜1-9-14

TEL：03-3896-7471 FAX：03-3853-1100

URL：<http://www.medicine.co.jp/toko/>